
絵の具

独マサ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

絵の具

【Nコード】

N3525D

【作者名】

独マサ

【あらすじ】

亮介が家に帰ると部屋がめちゃくちゃになっていた。そこにはうなだれたままの響子がいた。さて、二人はどうなってしまふのだろうか？

「駄目だと言っているだろう」

やり場のない感情はいつも、言葉が強くなることへと導かれる。

「何回言ったらわかるんだ。いい加減にしてくれよ」

黒革の光沢のあるソファァが血を流していた。どろどろで生々しい真ッ赤な血だ。

「だって、気がついたらいつもこうなっているからしかたがないでしょう……」

響子は消えるような小さい声でつぶやく。響子は床に座り込んでいた。黒い髪は濡れたように汗でしめっている。白いＴシャツは赤や黄色や黒い色が張りついて、なんだか革命を連想させる。

洋室のフローリングはまるで戦争の後のように無茶苦茶だ。色とりどりの絵の具がべつとりと広がっている。

我が家は、塩をまく代わりに絵の具をまき散らすらしい。と亮介は深いため息をつく。

「確かに僕は響子の画いた桜の絵に惹かれて君を好きになったかもしれない。しかし、今では絵の具をみるだけで吐き気がするよ」

重たい空気が更に重みを増す。蛍光灯の明るさが能天気な部下を思いださせた。

「風呂に入る」

そういつてうなだれたままの響子を置き去りにして、風呂場へ向かう。

響子は、大阪の美大を出た。卒業する前、いくつかの広告会社に内定をもらったが、絵で飯を食っていく事にあきらめがつかなかった。

しばらく実家での創作活動が続いた。画いた絵を画廊に安い値段で持ち込み、お金を貯めては小さな展示会を開いた。

『そのうち誰かの目にとまるのでは』

甘い期待だった。そんな中、ふと入った展示会で亮介と響子は知り合った。

風呂につかっていた亮介は、段々落ち着きを取り戻した。始めは面食らった。響子がおかしくなった。どうしていいかわからず、ただそばにることしかできず、抱き抱えながら泣いている響子を励ました。

しかし、何回も同じことが続くと、もう、うんざりだった。

風呂からあがった亮介は、さっきまでと同じ態勢でいる響子が目に入った。床は華やかで、無茶苦茶で、悲しくて……片付けなければ。

ふと何かが亮介の頭をよぎった。 なんかどうでもよくなってきたな。

つかつかと、響子に近寄り、側にあつた小さな円柱状の容器に入ったピンクの絵の具を指ですくった。

「響子」

やさしく声をかける。うつむいていた顔があがる。

「化粧、しよつか」

すつきりとした顔。目線は下。ウェーブのかかった前髪を手の甲で横に持つていく。指を頬にあて、大きめのピンクの丸をぬる。汗で濡れていたからすんなりと広がった。

「くすぐりたい……」

響子は胸の奥でむずがゆいものを感じた。響子は無意識にあがつた目線の先に、亮介の寂しげな瞳をみつけた。

「おっ、けっこうかわいいぞ。幼稚園児みたいだけどな」

亮介はそう言いながら、何か探して周りを見渡した。黒い絵の具を見つけると、さっきのように指ですくう。

今度は亮介は自分の両方の眉をつなげ太くした。

「どう？ 馬鹿殿みたいじゃないか？」

「ふふっ」思わず響子は笑った。重たい体を持ち上げるようにおもいきって声を発した。

「よくにあつてゐる、ばかとのさま」

亮介は響子の目に浮かぶ涙を見逃さなかった。それからお互いの眉毛を塗ったり、もみあげを太くしたりした。

たらこ唇で緑のひげの怪物ができたと言子は大はしゃぎした。負けじと亮介はインディアンをイメージしてぬりたくったが、わけがわからないものができてしまった。

「あなたは美的センスがないのよ」響子の声が耳に残る。

一緒に風呂に入った後、久しぶりに燃えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3525d/>

絵の具

2011年1月15日23時48分発行